

学校安全指導者研修会

事故の原因究明と再発防止のための
取組について学ぶ

令和6年4月3日発生

熊本県立鹿本高等学校サッカー部落雷事故を例に

熊本県教育委員会体育保健課

1. 事故の概要

2. 基本調査について

3. 詳細調査について

4. 再発防止の取組について

1. 事故の概要

2. 基本調査について

3. 詳細調査について

4. 再発防止の取組について

1. 事故の概要

○宮崎県への遠征計画

日 程：令和6年4月2日～3日（1泊2日）
参加者：部員23名と指導者3名（監督・コーチ・トレーナー）
内 容：「乙カップ」という名の複数学校参加の錬成会
届 け：県教育委員会への県外遠征届提出

○4月3日（事故当日）～

- ・ 正 午 前 後 2試合の練習試合を実施
- ・ 14：20頃 サッカーコート横でウォーミングアップを開始
- ・ 14：30頃 ウォーミングアップ中の生徒に落雷あり。4名が倒れた。
1人はすぐに意識回復。3名に対して監督ら心肺蘇生を開始
- ・ 14：46頃 救急隊到着、18名が搬送される

○4月4日

～4月5日

○4月5日～

指導主事2名が現地入りし、調査等を実施
各保護者が現地に赴き、17名の生徒を引き取り帰宅
意識が完全に回復しない生徒1名は加療を継続

1. 事故の概要

○事故当時の天候状況

4月2日

・ 19:00

参加校の監督会議にて、翌日の天候不良を確認し、天気予報や雨雲レーダーを使用しながら実施判断することを共有

4月3日

・ 11:40頃

雷注意報発令 ← 指導者は把握せず

ハーフタイム中に雨が強くなり、雷鳴が聞こえたため（閃光は確認できず）、後半の開始を5分遅らせる措置

～ 複数の練習試合を実施 ～

・ 14:20頃

15時からの練習試合に向け、13名がウォーミングアップ開始。雷鳴はなく、少雨。空は明るかった。

・ 14:30頃

突然の閃光と激しい雷鳴を伴い落雷。その後激しい雨。

1. 事故の概要

2. 基本調査について

3. 詳細調査について

4. 再発防止の取組について

2. 基本調査について

学校事故対応に関する指針【改訂版】P20～ R6.3 文部科学省

以下の事故については「基本調査」を行うことを基本

- 全ての「学校管理下（登下校中も含む）において発生した死亡事故」
- 被害児童生徒等の保護者の意向も踏まえ、学校の設置者が必要と判断した「治療に要する期間が30日以上の負傷や疾病を伴う場合等重篤な事故」

≪ 基本調査の実施主体 ≫

初期対応時において最も情報を把握しやすいと考えられる学校が、原則として実施主体となり、学校設置者の指導・支援の下、実施する。

2. 基本調査について

本件に対する実際の対応

- ・ 熊本県立鹿本高等学校が調査実施主体
- ・ 本課と学校協力の下、調査報告書を作成
- ・ 詳細調査移行の有無（設置者が記入）

1. 事故の概要

2. 基本調査について

3. 詳細調査について

4. 再発防止の取組について

3. 詳細調査について

学校事故対応に関する指針【改訂版】P30～ R6.3 文部科学省

【目的】

- ・ 発生原因解明
- ・ 事故後の対応確認
- ・ 再発防止策

【移行の判断】

- ・ 学校の設置者が行う
- ・ 被害児童生徒等の保護者の意向を配慮
(保護者の要望がある場合)

3. 詳細調査について

準備

詳細調査委員会の設置要綱 及び
詳細調査委員の設置要項 の制定



「いじめ調査委員会」の要綱・要項 及び
「学校事故対応に関する指針【改訂版】」を参考

3. 詳細調査について

準備

予算の確保

- ・ 会議場所や移動手段に関する使用料及び賃借料
- ・ 調査委員及び補助者の旅費と報酬（報償）
- ・ 実地調査に関する旅費 等



R6: 他の事業予算から流用
R7: 当初予算で確保

3. 詳細調査について

準備

調査委員の選定【指針】

- ・ 医師
- ・ 弁護士
- ・ 学識経験者
- ・ 学校事故対応の専門家 等

+ 補助者

計 7 名

- ・ 医師（スポーツドクター）
- ・ 弁護士 → **委員長**
- ・ 熊本地方気象台職員
- ・ 雷の専門家（大学教授）
- ・ 学校事故の専門家（学校安全研究所長）
- ・ 学校事故の専門家（大学教授）

職能団体
推薦依頼

県教委選定

委員長要望

- ・ 補助者（弁護士）

3. 詳細調査について

実施事項	内 容	備 考
第 1 回調査委員会 令和 6 年 1 2 月 1 3 日 ホテル熊本テルサ	・ 委員・関係者紹介 ・ 教育長より調査委員会への諮問 ・ 委員長・副委員長選出 ・ 公開・非公開の決定 ・ 事故概要及び基本調査確認 ・ 第 2 回以降の日程調整	会の冒頭のみ公開 委員会後に ・ 保護者説明 ・ 報道説明
第 2 回調査委員会 令和 7 年 1 月 2 7 日 防災センター	・ 補助者紹介 ・ 雷についての講義（調査委員より） ・ 事故当日の気象データについて（調査委員より） ・ 現地調査について	非公開 委員会後に ・ 保護者説明 ・ 報道説明
現地調査 令和 7 年 2 月 2 4 ～ 2 5 日 宮崎県内各地	・ 事故現場見学・検証 ・ 現場周辺での聴き取り ・ ゴルフ場への聴き取り ・ 宮崎県関係者への聴き取り ・ （甲高校職員・サッカー部員等） ・ 情報まとめ・共有	非公開

3. 詳細調査について

実 施 事 項	内 容	備 考
第 3 回調査委員会 令和 7 年 3 月 2 5 日 県庁防災センター	・ 報告書（案）の説明 ・ 報告書の内容についての審議 ・ 今後の調査委員会進行についての検討 ・ 第 4 回以降の日程調整	非公開 委員会後に ・ 保護者説明 ・ 報道説明
第 4 回調査委員会 令和 7 年 4 月 2 8 日 県庁防災センター	・ 報告書（案）の説明 ・ 報告書の内容についての審議 ・ 提言についての提案・審議	非公開 委員会後に ・ 保護者説明 ・ 報道説明
第 5 回調査委員会 令和 7 年 5 月 2 0 日 県庁防災センター	・ 報告書の説明 ・ 報告書の確認 ・ 教育長への答申 ・ 保護者への説明	会の冒頭のみ公開 委員会後に ・ 保護者説明 ・ 報道説明

3. 詳細調査について

その他の調査等について	
聴き取り調査	・ 鹿本高校サッカー部員 2 3 名 ・ 鹿本高校サッカー部監督・コーチ・トレーナー ・ 鹿本高校校長・教頭
照会文書	・ 消防署の救急活動報告書 ・ 乙カップ要項 ・ 鹿本高校危機管理マニュアル（周知方法含む） ・ 本件への県教委の対応等
任意提出物等	・ 被害生徒の事故当時の着用物 （ユニフォーム・スパイク・ソックス・脛あて） ・ 事故数時間前の他練習試合映像 ・ 鹿本高校応急手当研修実施要項

3. 詳細調査について

事故発生要因

○落雷がありうる状況で屋外での活動を継続

→本件落雷の直前には雷鳴や強い雨風が生じていなかったことから、雷に関する情報を得るとの意識にはならず、落雷がありうる状況であることを把握していなかった。

○事故防止マニュアルの整備の有無と内容

→学校の事故防止マニュアルには、落雷事故を防止するための対策に特化した記述はなし。同マニュアルは事故発生を予防するために注意する点や事故防止の方法に力点を置いているものではない。また、「乙カップ」には、事故防止マニュアルが整備されていなかった。

○天候の推移に関する情報収集の状況及び天候に対する対応

→午前中、監督らは雷鳴が聞こえたため、試合を一時中断し、天気予報アプリの雨雲レーダーを見て天候の推移を確認したが、雷に特化した天気情報を見ていなかった。

3. 詳細調査について

提言

雷及び落雷についての最新の正確な知識の習得

雷注意報有無の確認と雷ナウキャストの活用

躊躇なき活動停止と避難・マニュアルの理解

避難終了や活動再開の判断条件の理解

避難方法の確立と活動代替案の用意

1. 事故の概要

2. 基本調査について

3. 詳細調査について

4. 再発防止の取組について

4. 再発防止の取組について

I 事故防止の提言

＜提言1＞（報告書公表版53頁21～54頁2） ○いつ 日頃から ○誰が 屋外活動実施責任者及び実施担当者は、 ○何を (1) 雷及び落雷についての最新の正確な知識を習得しておく。 (2) 降雨がなく雷鳴が聞こえないからといって落雷がないとは言えないことを理解する。 (3) 遠くで雷鳴があったとしても、その雷は自分のいる地点に落ちる可能性があったという認識を持つ。 (4) 従来落雷を誘引すると思われていた物を何も身に付けていなくても、雷が落ちることがあることを理解する。 ※これらのことについては、生徒等に対しても、同様の知識を習得させることが望ましい。
＜提言2＞（報告書公表版54頁3～21） ○いつ 屋外活動を実施する前 ○誰が 屋外活動実施責任者及び実施担当者は、 ○何を (1) 天気予報の雷注意報の発表の有無を確認する。 (2) 雷注意報が発表されているときは、情報の取得及び屋外活動実施可否の判断等に当たる。 (3) 一定時間ごとに「雷ナウキャスト」を見て、発雷予測を確認する。 ※このことについては、生徒等に対しても、同様の知識を習得させることが望ましい。
＜提言3＞（報告書公表版54頁23～33） ○いつ 屋外活動の実施中 ○誰が 屋外活動実施責任者（責任者が判断できないときは実施担当者）は、 ○何を (1) 取得した雷警等の情報により落雷の危険があるときは、躊躇することなく屋外活動を停止し、安全な建物の中に生徒等を避難させる。 (2) 取得した情報で雷の発生が見込まれる場合に、屋外活動をどうするかについてのマニュアル（添1）を理解しておく。
＜提言4＞（報告書公表版54頁35～55頁5） ○いつ 屋外活動の停止・避難中（活動の再開前） ○誰が 屋外活動実施責任者（責任者が判断できないときは実施担当者）は、 ○何を (1) 避難の終了及び屋外活動の再開については、「雷ナウキャスト」等により雷警等の動き等に関する情報を十分に収集して落雷の危険が去ったと認められる状態になったことを確認したうえで判断する。 (2) 「雷ナウキャスト」及びその他の天気予報アプリ等で上空に雷警がない。 (3) 別の雷警の発生や接近がない。
＜提言5＞（報告書公表版55頁7～13） ○いつ 屋外活動を実施する前 ○誰が 屋外活動実施責任者及び実施担当者は、 ○何を (1) 避難方法及び避難中の事故を避ける対策をあらかじめ用意しておく。 (2) 避難した時に備えて、屋内でできる活動をあらかじめ用意しておく。

II 落雷事故再発防止の具体的取組

＜取組1＞ 県教育委員会の取組 落雷事故の防止については、これまでも各学校への通知や学校関係者への研修会等を実施してきたが、左記の提言1～5を踏まえ、改めて下記1～5を実施し、再発防止の徹底を図る。 1 報告書（公表版）及びその要旨を各学校、学校関係機関及びスポーツ競技団体に通知するとともに、報告書（公表版）及びその要旨を県教育委員会HPに掲載し、再発防止の徹底を図る。 2 左記の提言1～5に基づき、次の関係者を対象とした会議・研修会等において、改めて落雷事故防止について周知徹底を図る。 (1) 学校の管理職（小中学校長会、公立高等学校長会） (2) 学校体育の授業担当者（各校種体育研究発表大会、体育担当指導主事等研修会、高等学校体育主任会） (3) 部活動の指導者（部活動指導者研修会） (4) 地域移行をしたクラブチームの指導者（熊本県スポーツサポーター研修会） (5) 学校安全担当者（学校安全教室講習会） (6) スポーツ競技団体（競技力向上対策事業説明会） 3 左記の提言1～5を踏まえて、学校の「危機管理マニュアル（左記※1への対応含む）」を見直すよう各学校に通知する。 4 落雷事故に関する「落雷事故防止のためのチェックリスト」を作成し、各学校に配付する。 5 左記の提言1～5を踏まえて、「運動部活動指導の手引」の落雷事故防止に関する内容に具体的対策を加筆する。
＜取組2＞ 学校の取組 1 校内研修等を通して全職員が雷及び落雷についての最新の正確な知識を習得し、「雷ナウキャスト」の見方を理解する。また、学級活動や全校集会等で、生徒等に対しても習得させる。 2 左記の提言1～5を踏まえて、危機管理マニュアルを見直し、落雷事故防止について全職員がその内容を理解する。 3 屋外活動を実施する場合は、避難方法及び避難中の事故を避ける対策をあらかじめ用意しておく。また、避難した時に備えて、屋内でできる活動をあらかじめ用意しておく。

4. 再発防止の取組について

県教委 の取組

- ・ 報告書等の通知及び公表
- ・ 各学校の全教職員及び児童生徒等への研修実施
- ・ 各学校の危機管理マニュアルの見直し
- ・ 「落雷事故防止のためのチェックリスト」の作成
- ・ 「運動部活動指導の手引き」へ事故防止策の加筆

再発防止の徹底

学校の 取組

- ・ 落雷の最新正確な知識習得のための研修や集会
- ・ 提言を踏まえた危機管理マニュアルの見直しと理解
- ・ 屋外活動時の避難方法や代替案の準備

4. 再発防止の取組について

研修資料

避難の方法

落雷の危険

まずは
安全な屋内に避難

難しければ

・できるだけ低い姿勢
・電柱や鉄塔から4m以上離れた位置に退避(右図参照)

木の近くは
倒木の危険

図2019 落雷発生時

図2020 避難場所

雷についての情報の取得

「雷ナウキャスト」の活用

60分先までの10分刻みの発雷予測を表示するシステム

スマートフォンやタブレットで実際にみよう!

QRコード

<https://www.jma.go.jp/bosai/nowc/>

オレンジ以上は即避難!

黄色は要注意!

図2019 落雷発生時

チェック リスト

別添2 落雷事故防止のためのチェックリスト

一定時間ごとにチェックするモン!

<活動前>

- ☐ 天気予報を確認する。
- ☐ 上空に黒い雲がない。
- ☐ 雷の音が聞こえない。
- ☐ 冷たい風が吹いていない。
- ☐ 避難できる場所がある。
- ☐ 雷ナウキャストを確認する。

<活動中>

- ☐ 雷の音が聞こえたら教師や周りの人に伝える。
- ☐ 雷ナウキャストで正確な情報を取得する。

<活動の再開>

- ☐ 上空に雷雲がないことを確認する。
- ☐ 30分以上、雷が鳴っていない。
- ☐ 雷ナウキャストで新たな雷雲の発生や接近がないことを確認する。

雷ナウキャスト

図2019 落雷発生時

別添2 落雷事故防止のためのチェックリスト

一定時間ごとにチェックするモン!

<活動前>

- ☐ 雷に関する最新の正確な知識を職員が習得できている。
- ☐ 発達段階に応じて児童生徒等が雷に関する最新の知識や雷ナウキャストの見方を習得できている。
- ☐ 天気予報の雷注意報発表の有無を確認できている。
- ☐ 雷ナウキャストがいつでも確認できる準備ができている。
- ☐ 雷に備えた避難場所や避難経路の準備ができている。
- ☐ 屋外活動実施責任者(担当者)が決まっている。
- ☐ 活動停止の決定をした際の連絡体制・方法について確認できている。
- ☐ 活動中止の際の代替えの活動が準備できている。

<活動中>

- ☐ 雷ナウキャストで正確な情報を取得する。
- ☐ 屋外活動実施責任者(担当者)は、雷ナウキャストにより落雷の危険があるときは、躊躇することなく活動を停止し、児童生徒等を安全な建物の中に避難させる。

<活動の再開>

- ☐ 上空に雷雲がないことを確認する。
- ☐ 30分以上の発雷がなく、新たな雷雲の発生や接近がないことを雷ナウキャストで確認する。

雷ナウキャスト

図2019 落雷発生時